＜生物資源研究センター応用研究部＞

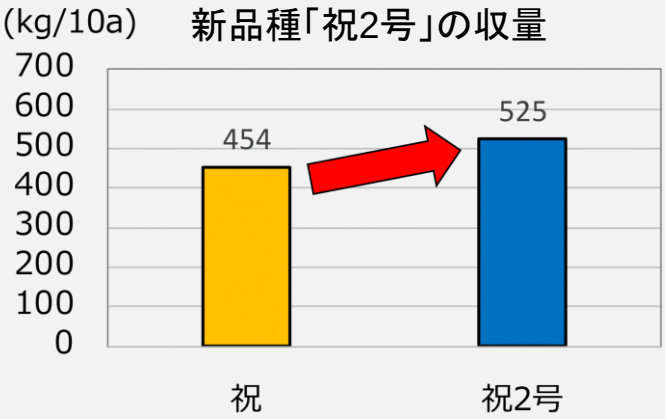
既存品種「祝」より栽培しやすく収量が多い京都オリジナルの酒造用水稲品種を開発

既存品種「祝」より草丈が短くて栽培しやすく、収量が多く、酒造適性の高い京都府独自の酒造用水稲品種「祝２号」を開発しました。

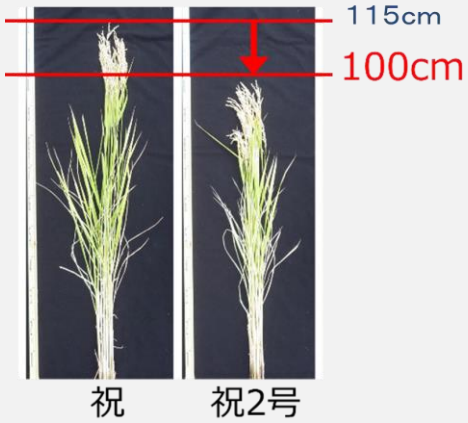
背景	・既存品種は倒れやすいため栽培しづらく、収量が低いため、生産者から改善の要望あり ・酒造メーカーからは生産量の安定化が求められている
課題等	・栽培しやすく、安定的に収穫が確保でき、酒造適性の高い品種開発が必要

●新品種の特徴

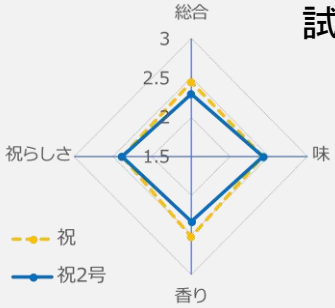
① 収量が16%向上（既存品種比較）



② 草丈が短く、倒伏しにくい



③ 高い酒質評価



試験醸造酒利き酒会

（図中の数値は小さいほど高評価）

④新品種に適した栽培方法の確立

栽培管理のポイント

- 田植期　5月中～下旬
- 株間　16～18cm
- 施肥量　窒素6.5kg～7.5kg/10a
- 水管理　強い中干しと早期落水を行わない

研究成果

・①収量が多い、②草丈が短く倒れにくい、③酒造適性が高い、新品種を開発しました。
・１６％の収量向上が見込めます。

今後の展開

・本品種は令和６年に品種登録し、同年から全面切替予定です。
　（面積はR5：121ha→R6：131haに拡大）
・栽培こよみにより、生産者へいち早く新品種に適した栽培方法の普及・定着を図ります。